



ジャパンカップのゴールスプリントを制したリック(左)

シクリスムエコーNo.134 2006年10月号



2006 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE 2



第 61 回国民体育大会自転車競技会 5

第 20 回ツール・ド・北海道国際大会 6



ロード世界選手権 2006 オーストリア 8

第 53 回全日本プロ選手権自転車競技大会ロードレース 11



2006 年日韓対抗学生自転車競技大会 12



2006年サイクルサッカー・ワールドカップ第5戦 13

競技大会結果 14

各大会 日本代表選手団 16

連盟の動き 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。
<http://keirin.jp/>



2006 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE

サウニエルデュバルのリッコがゴールスプリントを制す!



鶴カントリーの登りを行くメイン集団

回を重ねること15回、今年も宇都宮森林公園にジャパンカップがやってきた。今年エントリーしたUCIプロツアーチームは昨年と同じ4チーム。中でも最大の注目は、日本チャンピオンである別府史之が所属するディスカバリーチャンネルの参加であろう。別府は世界最強と称されるディスカバリーの、エースナンバーを背負っての堂々たる参戦だ。となれば思い起こすこと9年前、'97ジャパンカップでやはりプロチームであるマペイからエントリーし、日本人最初の(そして今のところ唯一の)ジャパンカップ制覇を成し遂げた阿部良之以来の日本人選手による優勝の期待が、いやがうえにも高まるというものだ。

だがレース前日のチーム公式記者会見でのヨハン・ブリュイネール監督やチームメイトのコメントは、チームとしての勝利を目指す意志こそ感じられたものの、別府を勝たせようというそれではなかった。キャプテン的立場のベンハミン・ノバルのみ「フミのために全力を尽くしたい」と語ったが、これは多分に日本のマスコミに向けたリップサービスであろう。これがかのツールドフランスで、アームストロングの優勝に貢献してきた選手の貫禄というも

のだ。すなわちフミが勝つも負けるもフミ次第。意外にも別府はこのコースでのレースを走るのが初めてとのことで、それも不安要素ではあった。

10月22日、恒例の午前10時、岩楯昭一JCF会長の放つ号砲によりレースの幕が切って落とされた。まず飛び出したのは狩野智也、品川真寛、廣瀬佳正(以上シマノ)西谷泰治、盛一丈(以上愛三工業)三船雅彦、鈴木真理(ミヤタ)、橋川健(マトリックス)、福島康司(チームバン・今年もkajiはここにいる)、畑中勇介、岡崎和也(以上日本ナショナル)の11名。このうち三船は鶴C.Cの登りで

遅れるが残る先頭集団10名は、21分35秒のラップタイムでメイン集団に1分11秒の差をつけてS/Fラインを通過する。先頭集団に3名を送り込んでいるシマノはチームの戦略からか2周目にエースの狩野を集団に戻し、これで集団の人数は9名になるもののその後も順調に後続との差を広げ、7周目には最大2分50秒までその差が広がる。なお3周目の山岳賞は鈴木、6周目は福島が獲得している。

それまで主にランプレ勢によってコントロールされていたメイン集団が動き始めたのは8周目を過ぎてから。8周



ゴール後、満面の喜びのリッコ(左)

一時は3分近くまでリードした日本選手の先頭集団

完了時に先頭8名(橋川が8周目に脱落)との差を1分15秒まで詰めると、9周目の古賀志林道の登りでハビエル・メヤス(サウニエルデュバル)が集団からエスケープして、単独で先頭を追走する。9周目の山岳賞こそ廣瀬が獲得したがメヤスはさらに先頭との差を縮め、5km地点(牧場)付近で先頭集団から脱落した畑中と合流し、ペースが上がらないと見るやその畑中をも切り捨てて単独で前を追いかける。

先頭集団も必死の抵抗を見せるが、遂に鶴C.Cの登りでメヤスが先頭集団を捕らえた。9周完了のS/Fラインは岡崎が先頭で通過したが、10周目の古賀志林道の登りでノバルのペースについていたのは廣瀬、福島の名のみで先頭はこの3人となる。山頂でメイン集団との差は1分10秒。この後7km地点(田野)までこの差をキープするが、先頭3名のうち前を引くのはノバルだけで徐々にランプレ、ディスカバリー勢が前を引く集団との差が縮みはじめる。8km地点(中坪)でその差は55秒、10km地点(多気)で35秒、12km地点(射撃場)で20秒、鶴C.Cの登りでは10秒まで差が縮まった。

ラスト1周、ここまで集団に残ったのは20名。古賀志林道の登りで最後の振るい落しがかけられる。アシストとしての責任を十分に果たしたノバルを始めとする選手が次々と脱落していき、頂上を先頭で通過したのはシルヴェスタ・ズイマイド(ランプレ)、リカルド・リッコ(サウニエルデュバル)、ステイン・デヴォルデル(ディスカバリー)の3名で、10秒遅れてルジジェーロ・マルツォーリ(ランプレ)、ウラディミール・グセフ(ディスカバリー)、土井雪広(シマノ)の3名が続く。この後続3名のうちマルツォーリ、グセフの2名が前を行く3名を捕まえ先頭集団は5名となる。

この構成からランプレとディスカバリーの優勝争いという構図が予想された。中でも特にランプレのズイマイドの動きが活発で再三にわたり揺さぶりをかけ、それをディスカバリーの2名が追いかけるといった展開が続く。ラスト500mを過ぎてズイマイドが、マルツォーリを引っ張り最後の仕事となるゴールプリントを仕掛ける。ラスト250mでズイマイドは戦線離脱、マルツォーリが勝利へ向けてペダルを踏み



込む。ところがその右側から満を持して飛び出したのがリッコで、見事半車輪差で勝利を飾った。ランプレとディスカバリーにして見れば優勝をさらわれたような形ではあるが、ノバルの激走を思えば文句はつけられないといったところであろう。フィニッシュタイムが4時間を切る、ハイスピードレースであった。

なお前日行われた男子オープンレースは西谷雅史(オーベスト)が優勝。女子オープンレースは昨年まで9連覇の沖が6位に終わり、昨年1秒差で涙を呑んだ萩原麻由子(鹿屋体育大学)が初優勝を飾った。

さて今年のジャパンカップを語るには、もうひとつの話題に触れねばなるまい。今年からジャパンカップは運営形態が変わり、フィニッシュライン近辺から古賀志林道山頂までのエリアが有料化された。去年まで無料だったものが有料化されたのだからそれなりの批判は覚悟せねばならないが、結果的に有料エリアも昨年並かそれ以上の観客を迎えることができた。今年はメインストレートの進行方向左側をすべて観戦エリアとして開放し、ここに例年以上の物販テントやスポンサーテントが並び、さらに表彰式やサインチェックが行われるステージカーや大型ビジョンが配置された。このエリアはスタート前後には大勢の観客で賑わい、スポンサーサイドに好印象を与えたとの話も聞く。有料化に対し最後まで抵抗を感じていた方々もいるだろうが、橋川選手のブログでの意見なども閲覧

していただいて、ある程度の理解は得られていたのではないだろうかと思う。

運営上の問題も皆無であったわけではない。山頂のエアアーチは良いアイデアではあるのだが、あの巨大な脚は観戦する上で邪魔にしかかっていない。貴重な常設トイレが有料エリアにあることで女性の観客には負担を強いただろうし、観戦禁止であった筈の古賀志林道下りエリアに多数の観客が入っていたのも有料化の弊害のひとつであろう。この下りエリアに関しては、今年はプログラム上でも観戦禁止と明記されておらず、警備も手薄であったようだ。昨年も観客が入っていたが、下りを観戦ポイントのひとつと紹介しているホームページもあるぐらいで、今年は昨年以上の観客が入っており非常に危険な状況であった。トップ選手であっても落車が皆無であるとはいえないし、もし競技車両がコースアウトしたら大惨事に繋がりがかねない。最後は観客自身が自らの安全を守るしかないという事を踏まえ、危険エリアには決して立ち入らないということを中心掛けて欲しい。



山岳賞を獲得した日本の3選手

あと1周を残した鶴カントリーの登りを行く先頭集団。前を引くのが西谷



ネット等において今回の入場料収入がJCFに入っているとの意見も見られたが、今回の有料化はジャパンカップをさらに続けていく上での運営側のアイデアのひとつであり、JCFの収入となっていないことを広報誌として最後に記載しておきたい。公式ホームページにおいて今回の有料化に関してあのような言質で理解を求めた以上、真の評価が下されるのは来年のこの大会であるということを運営側は認識せねばならない。 (村田 隆宣)



JCFスポンサーの方々との記念撮影

オープン男子は西谷が逃げ切る



オープン女子は萩原が制する

[競技結果]

2006年ジャパンカップ・サイクルロードレース
(2006/10/22 栃木・宇都宮)

男子エリート

- | | | | |
|----|---------------|-----------|---------|
| 1 | リカルド・リッコ | サウエルデ・ユバル | 3:58:18 |
| 2 | ルッジ・エロ・マルツォリ | ランプレ | 3:58:18 |
| 3 | ウラテ・イミル・グセ | ティスカパリ | 3:58:18 |
| 4 | ステイン・デ・ヴルデル | ティスカパリ | 3:58:18 |
| 5 | シルヴェスターズ・イマイト | ランプレ | 3:58:28 |
| 6 | マヌエル・モリ | サウエルデ・ユバル | 3:58:59 |
| 7 | 宮沢 崇史 | チーム・パン | 3:58:59 |
| 8 | シビエル・フロレンソ | ブイグ・テレコム | 3:59:01 |
| 9 | 野寺 秀徳 | スチル・シノ | 3:59:15 |
| 10 | 福島 晋一 | チーム・パン | 3:59:15 |

オープン男子

- | | | | |
|----|-------|----------------|---------|
| 1 | 西谷 雅史 | 東京 チーム オークスト | 2:10:17 |
| 2 | 飯野 嘉則 | 東京 スミタバ 和 | 2:10:38 |
| 3 | 福田 真平 | 神奈川 spacebikes | 2:11:20 |
| 4 | 山下 貴宏 | 兵庫 ミヤタビル | 2:11:20 |
| 5 | 相川 将 | 埼玉 ブリヂストン | 2:11:20 |
| 6 | 奈良 基 | 宮城 グイッ | 2:11:35 |
| 7 | 漆澤 均 | 岩手 日本大学 | 2:11:35 |
| 8 | 津末 浩平 | 大分 ミヤタビル | 2:11:35 |
| 9 | 村山 規英 | 東京 ブリヂストン | 2:11:35 |
| 10 | 塚野 満 | 千葉 オッティ | 2:11:35 |

オープン女子

- | | | | |
|----|-------|-----------------|---------|
| 1 | 萩原麻由子 | 群馬 鹿屋体育大 | 1:16:20 |
| 2 | 山口 亮子 | 愛知 村ノCCD | 1:16:25 |
| 3 | 豊岡 英子 | 大阪 masahiko | 1:16:25 |
| 4 | 真下 正美 | 神奈川 Specialized | 1:16:40 |
| 5 | 片山 梨絵 | 神奈川 ホントレジャー | 1:17:27 |
| 6 | 沖 美穂 | JPCA 777-レピスタ | 1:17:51 |
| 7 | 西 加南子 | 千葉 スミタバ 和 | 1:22:32 |
| 8 | 小山美貴子 | 埼玉 ZELKOVA | 1:22:37 |
| 9 | 酒井 真清 | 大阪 ティスカパリ・シノ | 1:23:41 |
| 10 | 戸井麻里子 | 埼玉 なるしま | 1:23:47 |



2周目のマウンテンポイントへ向かう女子グループ



第61回国民体育大会自転車競技会

団体総合は福島県が優勝!

10月1日より5日まで、のじぎく兵庫国体が開催され、個人ロードレースは明石市特設コース、トラックレースは明石公園自転車競技場で行われた。

ロードレース成年は井上和郎(福井・チームパン)が優勝。少年は吉田隼人(奈良・榛生昇陽高)が優勝した。

トラックレースは今年から成年少年が混成となった男子4km団体追抜競走が岐阜県チーム、また同じく混成となった男子チームスプリントは鳥取県が優勝した。

また、団体総合得点では福島県が2位の奈良県に6点差をつけ、58点で4年連続1位となった。

[競技結果]

第61回国民体育大会自転車競技会
(2006/10/1-5 兵庫・明石)

成年男子個人ロードレース(140.8km)

1	井上 和郎	福 井	3:02:28
2	辻 善光	京 都	3:02:28
3	日置 大介	兵 庫	3:02:28
4	大庭 伸也	宮 城	3:02:28
5	辻浦 圭一	奈 良	3:02:29
6	片山 和正	岡 山	3:02:29
7	普久原 奨	沖 縄	3:02:29
8	飯野 嘉則	東 京	3:02:34
9	森 真博	香 川	3:02:34
10	湯浅 徹	千 葉	3:02:46

少年男子個人ロードレース(123.2km)

1	吉田 隼人	奈 良	2:50:38
2	柿澤 大貴	長 野	2:50:39
3	松井 響	京 都	2:50:39
4	竹之内 悠	京 都	2:50:39
5	野口 正則	奈 良	2:50:39
6	大久保 陣	鹿 児 島	2:50:39
7	須永 優太	福 島	2:50:39
8	大友 翔馬	宮 城	2:50:39
9	轟田 義明	埼 玉	2:50:39
10	寺垣慎太郎	富 山	2:50:39

成年男子1kmタイムトライアル

1	我妻 敏	福 島	1:08.318
2	城 幸弘	山 梨	1:08.485
3	片岡 迪之	岡 山	1:08.729
4	矢野 賢児	高 知	1:08.779
5	西村 光太	三 重	1:09.434
6	駒井 大輔	東 京	1:09.584

少年男子1kmタイムトライアル

1	脇本 雄太	福 井	1:07.711
2	坂本 貴史	青 森	1:08.114
3	田口 守	秋 田	1:08.818
4	山下 一輝	山 口	1:09.155
5	関根 彰人	福 島	1:09.340
6	澤口 大和	宮 城	1:09.468



成年男子スプリント

1	前田 義和	鹿 児 島
2	中園 朋亨	福 岡
3	佐川 翔吾	大 阪
4	屋良 朝春	沖 縄
5	河端 朋之	鳥 取
6	内田 晃弘	静 岡

少年男子スプリント

1	山崎 功也	秋 田
2	深谷 知広	愛 知
3	佐々木 海	宮 城
4	宮崎 康司	香 川
5	石口 慶多	兵 庫
6	財前 匠	大 分

成年男子ケイリン

1	鈴木雄一朗	山 梨
2	桜井 太士	鳥 取
3	中野 彰人	和 歌 山
4	三谷 政史	滋 賀
5	東矢 昇太	熊 本
6	井上 将志	福 岡

少年男子ケイリン

1	入部正太郎	奈 良
2	利根 正明	大 分
3	井手 龍太	鹿 児 島
4	藤田 勝也	和 歌 山
5	小西 悠貴	京 都
6	大島 将人	福 島

成年男子4km速度競走

1	湯浅 徹	千 葉	4:39.907
2	西山 知宏	福 井	4:40.150
3	白川 巧	大 分	4:40.330
4	向川 尚樹	大 阪	4:40.560
5	矢代 慎吾	富 山	4:40.750
6	櫻井 正孝	宮 城	4:48.000

少年男子4km速度競走

1	横関 裕樹	岐 阜	4:46.040
2	野口 正則	奈 良	4:48.300
3	木守 望	和 歌 山	4:49.390
4	山崎 翼	大 分	4:49.750
5	足立 和哉	京 都	4:50.580
6	飯塚 力也	山 梨	5:05.270

少年男子ホクトレース(24km)

1	窪木 一茂	福 島	18 p
2	内間 康平	沖 縄	14 p
3	轟田 義明	埼 玉	14 p
4	大西 周太	兵 庫	14 p
5	青柳 憲輝	栃 木	11 p
6	越海 誠一	大 分	10 p

成年男子ホクトレース(30km)

1	角 令央奈	兵 庫	30 p
2	守澤 太志	秋 田	19 p
3	松村 光浩	和 歌 山	18 p
4	武藤 大輔	高 知	17 p
5	兼平 純	岩 手	13 p
6	岡部 英人	富 山	10 p

男子チームスプリント

1	鳥 取	桜井・河端・岩本	1:18.856
2	三 重	西村・小川・村田	1:19.576
3	山 梨	城・鈴木・伊藤	1:19.016
4	宮 城	阿部・三浦・櫻井	1:20.339
5	千 葉	湯浅大・角口・佐渡	1:19.834
6	鹿 児 島	前田・新納・大久保陣	1:19.862

男子4km団体追抜競走

1	岐阜	青木・中島・川西・不破	4:27.907
2	福島	我妻・明珍・小豆畑・須永	4:31.449
3	福井	山本・井上・西山・脇本	4:39.136
4	兵庫	日置・浦門・角・大脇	4:52.881
5	和歌山	森田・松村・藤田・榎本	4:35.305
6	奈良	安福・辻浦・大矢・吉田隼	4:36.842

総合得点

1 福島 58点 2 奈良 52点 3 福井 51点



国民体育大会10回出場表彰

平石 功(栃木)・西尾 孝政(埼玉)
水澤 耕一(東京)・岡部 英人(富山)
坂本 信也(富山)・浦門 義人(兵庫)

第20回ツール・ド・北海道国際大会

第20回記念大会に相応しい札幌市大通公園クリテリウム開催



第20回を迎えるツール・ド・北海道国際大会は、道北中心都市旭川のプロローグでスタート。道北を舞台に6日間、総走行距離734kmで争われた。今年の参加チームは海外6チーム、国内8チーム、学生6チームの全20チーム。

盛一大(愛三工業)がプロローグ2連覇 愛三工業は4年連続初日リーダー

初日プロローグは旭川市石狩川河川敷で行われ、盛一大が3分12秒32、平均時速46.79kmで2.5kmを走り抜き2連覇を達成した。

愛三工業としてはプロローグ4連覇を達成。4年連続で第1ステージでリーダージャージを着ることとなった。

サルツバーガーがステージ制覇 学生の辻が山岳賞ジャージ獲得

第1ステージは旭川市大雪アリーナ前をスタート。上紋峠を通過し、名寄市JR駅前にフィニッシュする169km。

スタート後、アタックを繰り返されるがなかなか決まらない。最初のホットスポットまで逃げは決まらず。ホットスポット1位はマリウス・ヴィズィアック(NIPPO)。ボーナスタイムを獲得しバーチャルリーダーとなった。

そのホットスポットの後、今年のインカレチャンプの中島康晴(鹿屋体育大学)と辻善光(立命館大学)が逃げを決めた。その後、普久原(ブリヂストン)が先頭2人に追いつく。

最初のKOM(山岳ポイント)3人はタイム差を保って好調に逃げる。1位通過は辻。1分30秒遅れて集団が通過。先頭は鈴木真理(ミヤタ)。

2回目のKOM、上紋峠の上りの序盤メイン集団はスローペースだったが、中盤からペースがあがり、メイン集団は分裂する。しかし、先頭3人は逃げ切って山頂を通過。1回目と同じく辻が先頭で通過し、山岳賞ジャージを獲得した。20回目にして、初めて学生が特別ジャージを着用することになった。

分裂した集団は、下り区間で逃げていた3人を吸収して、先頭集団は35人。バーチャルリーダーとなっていたヴィズィアックは遅れていた。

そのあと補給所でリーダージャージの盛が落車する。怪我の具合が心配されたが、すぐに集団に復帰。そのあとのホットスポットはなんとトップ通過。貴重なボーナスタイムを獲得した。

残り20km、3つ目のホットスポットも33人のまま。1位はカルステン・リーゲル(ドイツ)だった。

その後も逃げは決まらず、集団でのスプリント勝負になり、ウェズリー・サルツバーガー(オーストラリア)が優勝を飾った。

4大会連続でプロローグのリーダージャージを獲得した愛三工業は、4度目の第1ステージでついにリーダージャージ防衛を成功させた。

宮沢(VANG)が逃げ切りステージ制覇で、個人総合時間トップに浮上

第2ステージは土別市役所をスタートし、深川市総合運動公園にフィニッシュする、185km。

序盤、アタックが繰り返された。特にVANGとNIPPOが積極的な動きをみせたが、なかなか決まらない。

最初のKOM手前で福島康司(VANG)が逃げをうち、そのまま土別峠をトップ通過。土井雪広(シマノ)が2位通過。そして、山岳賞ジャージを着る辻が食らいつき3位で通過した。2回目のKOMは土井がトップだったが、辻も2位通過。この時点で山岳賞ジャージを守った。

次の下りで、清水良行(NIPPO)がアタック。これに再三アタックをかけていた福島が追いつき、最初のホットスポットは清水、福島の順に通過した。

ホットスポット後、シェルストビトフ(カナダ)、大村寛(法政大学)、柿沼章、津末浩平(共にミヤタ)、キム・ドンヤン(韓国)が清水と福島に合流して7人の逃げ集団を形成する。

この7人の中でも動きをみせながら、2回目のホットスポットと3回目のKOMを通過した。3回目のKOMの上りで後続集団もペースアップし、下りで逃げている選手たちを吸収して、レースは振り出しに戻った。

169km地点の上りで土井、ジェイコブ・アーカー(カナダ)、ダニエル・マッコネル(オーストラリア)がアタック。これに西谷泰治(愛三工業)、石田哲也(NIPPO)、宮沢崇史(VANG)、鈴木が合流して7人が先頭集団を形成した。石田以外の6人は個人総合時間賞で上位の選手たち。逃げ切れれば個人総合時間賞逆転の可能性がある。

ゴール手前で西谷が飛び出したが失敗。このカウンターで宮沢がアタックを決め、3秒差をつけて単独でゴール。ボーナスタイムも獲得して、宮沢が個人総合時間賞でトップに立った。

西谷泰治(愛三)が会心のステージ優勝を決めて、リーダーに

第3ステージは東神楽町役場前をスタートし、白金温泉、望岳台付近を通過

最終ステージ、ヴィズィアックが区間優勝。総合優勝の西谷も両手を挙げてフィニッシュ



して十勝岳温泉を巡り富良野市に入り、更に桂沢湖から三笠市総合運動公園にフィニッシュする今大会最も厳しい170kmのコース。

スタート直後から上りが始まるため、集団は少し落ち着いたスタートとなった。そんな中で最初に動きを見せたのはプリヂストン・アンカーだった。そこにマトリックスのエース橋川健らが合流、5人の逃げを形成した。最初のホットスポットは橋川がトップで通過。タイム差は4分以上開く。集団はVANGと立命館大学が前を引く。立命館大学は、辻の山岳ジャージを守ろうとする動きだ。

最初のKOMは逃げていたグループが通過。2回目のKOMの上りで逃げグループは吸収されて、ここで12人の先頭集団が形成される。リーダージャージを着た宮沢は、後ろの集団に取り残された。KOMトップは土井。山岳賞ジャージを着た辻は遅れていて、逆転されてしまう。

12人を追う集団はVANGが先頭を固めるが、タイム差は広がっていく。

そして、2回目のホットスポットは西谷がトップ通過。2位にマッコネルが入り、それぞれボーナスタイムを獲得した。3回目のKOMは2回目と同様に土井がトップで通過した。

先頭の12人は残り30kmで、アタックがはじまる。増田成幸(ミヤタ・スバル)がここで脱落し、フィニッシュは11人の勝負になった。

そして、三笠市総合運動公園のフィニッシュに最初に飛び込んだのは西谷。2位に鈴木、3位エリック・ウォル

バーグ(カナダ)が入った。ボーナスタイムにより西谷がリーダージャージを獲得。ステージ2位の鈴木はポイント賞でトップに立った。

ヴィズィアックが区間優勝 西谷は首位を死守

第4ステージは、美唄市役所をスタートし、空知、石狩地域を巡り札幌大橋からモエレ沼公園にフィニッシュする180kmの比較的平坦なコース。

レース序盤は大逃げを決めたいチームがアタックを

繰り返す。リーダーの愛三工業は、個人総合時間上位以外の選手の逃げを容認する感じだが、どこのチームも逃げに選手を乗せたいために、アタックの潰し合いの状況が続く。

その中で岡崎和也(NIPPO) 柿沼、マーシュ・クーパー(カナダ) 宮澤、秋元佑一朗(プリヂストン)の6人が逃げグループを形成することに成功する。

この6人は後続とのタイム差を広げて行く。一時は5分以上のタイム差になり、宮澤は暫定リーダーとなっていた。

しかし、メイン集団をコントロールする愛三工業は、焦ることなく集団を引き続ける。

レースはこのまま淡々と進むが、補給所の後の上りで先頭から秋元が遅れて、先頭は4人になる。

集団は最後のKOMで動きを見せた。スキル・シマノが攻撃をし、これにより後続集団が活性化する。しかし、愛三工業の鉄壁な走りの前に、メイン集団から抜け出せた選手はおらず、再び愛三工業のコントロールが始まる。

残り10kmでタイム差は1分30秒程。先頭4人からアタックが始まる。後続も逆転をかけて、再びアタックが始まる。ここまで仕事をしてきた愛三工業のアシストたちが集団後方に下がってしまうが、西谷が自らチェックする。

そしてラスト1km。先頭から岡崎が抜け出し、逃げ切り優勝かと思われたが、ラスト500m手前で、メイン集団が追いつき、大集団のスプリント勝負となり、ヴィズィアックがステージ優勝を決めた。

ヴィズィアック区間2連勝

西谷が初の個人総合時間優勝

第5ステージ、待ちに待った札幌大通公園はあいにくの雨となってしまったが、沿道には多くの観客が詰めかけた。

4日目、最初のホットスポットはヴィズィアック、サルスパーガー、綾部勇成(愛三工業)の順で獲得。

8日目のホットスポットは、ヴィズィアック、西谷、鈴木の順。この時点でヴィズィアックはポイント賞暫定1位に。

12日目のホットスポットは、ヴィズィアック、サルスパーガー、西谷。3つのホットスポットが終わり、リーダージャージの西谷と2位鈴木とのタイム差は8秒となった。

16日目、最後のホットスポットは、山本雅道(シマノ)、西谷、ヴィズィアックの順。フィニッシュを前に、西谷と鈴木との差は10秒となり、西谷の個人総合優勝はほぼ確実となった。

そしてフィニッシュ。ステージ優勝はヴィズィアックが獲得。西谷は2位に入り、初の個人総合優勝を決めた。

また、地元北海道地域選抜の阿部嵩之がステージ6位に入り、U23区間賞を獲得した。(ツール・ド・北海道ニュース抜粋)

[競技結果]

第20回ツール・北海道国際大会

(2006/9/13-18 北海道・道北/道央)

個人総合時間順位

1	西谷 泰治	愛三工業	17:53:29
2	鈴木 真理	ミヤ・スバル	17:53:46
3	McCONNELL Daniel	AIS Team	17:53:55
4	ERKER Jacob	Symmetrics	17:53:58
5	土井 雪広	スル・スル	17:54:00
6	SULZBERGER Wesley	AIS Team	17:54:02
7	WOHLBERG Eric	Symmetrics	17:54:12
8	清水 都貴	チーム・スル	17:54:22
9	廣瀬 佳正	スル・スル	17:54:31
10	真鍋 和幸	NIPPO	17:54:33

個人総合時間順位(U23)

1	中島 康晴	鹿屋体育大	17:58:47
2	山本 幸平	北海道選抜	17:58:54
3	島田 真琴	法政大学	17:58:55

個人総合ポイント賞

1	WIESIAK Mariusz	NIPPO	94p
2	SULZBERGER Wesley	AIS Team	81p
3	西谷 泰治	愛三工業	77p

個人総合山岳賞

1	土井 雪広	スル・スル	26p
2	辻 善光	立命館大学	19p
3	COOPER Marsh	Symmetrics	12p

団体総合時間順位

1	スル・スル	53:43:08
2	CANADA (Symmetrics)	53:46:55
3	ミヤ・スバル	53:49:05



ロード世界選手権 2006 オーストリア

アンダー23で新城が14位!



2006年9月23日

種目:ロードレースU23及びエリート女子

距離:U23 22.15km×8=177.2km

女子エリート 22.15km×6=132.9km

天候:晴れ 気温:25度

=ロードレースU23=

9時開始のU23を控え、出場選手とスタッフは朝6時に朝食を取り、7時半には新城、三瀧、村山、畑中の4人が自走でスタート地点に向かった。天気は晴れてはいたものの霧が濃く、8kmほどの道のりを走るだけで自転車や髪の毛が濡れてしまうほどだ。気温は20度くらいだが、日陰にいるとどんどん体が冷えていくため、スタート直前までアームカバーとウインドブレーカーが手放せなかった。

4人はいつも通り笑顔でピットに入ったが、やはり緊張していないとは言えないようだ。畑中は会場についてから5回もトイレに行き、新城はチームピットを出る前に、「ヤバイ、もう世界選が始まっちゃった!」と叫ぶ。4人はただ参加するだけでなく、勝負に來ていた。

出場選手177名。スタートはゼッケン順だったため、ゼッケン122~125番の日本代表は後方に並ばされる。スローペースで進む集団が、スタッフの控える第1ピットゾーン(スタートから1.3km地点)を通る頃も、4人は集団の後ろに位置する。

そんな状況下で、新城は確実に集団順位を上げていく。やがて1周目を終えるとき、新城は7位でフィニッシュラインを通過。その後も常に集団の前で展開する。

一方、新城のアシストを買って出た3人は、なかなか前に上がれない。畑中は膝の故障が影響し、3周目終了時点

で172位。厳しい坂を上るときには国際中継のテレビカメラに追われ、苦しさゆがむ顔=このレースの厳しさを表現するために使われた。4周終了時点ではリトアニア選手と2人だけで前を追う。ピットでは畑中を励ますために、できるだけ平常心で補給の準備をする。しかし、畑中はこちらには目もくれず、ただ前を見てペダルを回した。隣にいたリトアニア選手がスピードを緩めて自国のピットに止まったときでさえ、そちらに目をやることはなかった。

やがて村山と畑中が、5周め終了時点でリタイア。2人の周回ごとのフィニッシュライン通過順位は、村山が165位、163位、166位、164位、161位、畑中が155位、166位、172位、171位、166位。ほとんど集団の後ろにいたことがわかる。レース前、あれだけ元気になっていた彼らは、ピットに入るなりふさぎ込み、世界選という現実に打ちのめされたボクサーのようにただ座っていた。

新城のアシストとして唯一生き残った三瀧は、6周目の上りで落車に巻き込まれて脚を止められる。幸い三瀧自身の落車はなかったが、その間に集団との差が開く。そこは何かか追いつくが、脚を使ったのが響いたか次の周回で遅れ、ひとり旅の三瀧は、コミッセルの「ストップ」という言葉を聞くか聞かないかに追い込まれる。最終周回ではピットの前で一瞬スピードを緩めるが、コミッセルの「ゴー」という言葉に逆に励まされ、完走目指して前へ進む。

レースのほうはファイナルラップで決まった6人の逃げが、主導権を握る。6人の国籍を見ると、ドイツ、フランス、ロシア、イタリア、ベルギー、オランダと強豪ぞろいだ。それを追う集団に残る新城は、とにかく集団を引っ張って、あと50mのところまで迫る。周囲は逃げに選手を送った国の選手ばかり。自分で追うしか他に方法はない。

結局、逃げが決まって新城は集団ゴール。タイムは4時間55秒で、トップとの差はわずか5秒だった。ピットに戻ってきた新城は、藤野コーチに向かって「すみません」と謝り、「クソッ!」と自分の成績を罵った。しかし周囲が

らしてみたら、各自の記憶をすべて持ち出しても、世界選手権という舞台で近年総合14位という成績は聞いたことがない。それに満足しない新城の器の大きさを感じられる。

今年でU23のカテゴリーを終える新城。今後のエリートでの活躍も期待したい。



日本人最高位の14位でレースを終えた新城幸也のコメント

レースが始まる前、「あのときこうしていれば...」と後悔するようなレースだけはしたくないと思っていたが、結局やってはいけないレースをしてしまった。10%の最大斜度がある最後の上りで、前に5秒差まで迫ったにも関わらずつめることができなかった。周囲が前に逃げている国籍の選手ばかりで引き切れなかったのもあるが、自分が躊躇してしまった面もある。14位とは言え、集団の頭を取って14位ならまだ喜べるが、集団ゴールで14位は恥ずかしい。今年でU23カテゴリーも終了。U23では勝ててもエリートで勝てない意味がないので、エリートに行っても活躍したい。当面の目標はプロ1勝。先の目標はツール・ド・フランスで勝つことだ。

130位で完走を果たした三瀧光誠のコメント

落車の影響で遅れたあとはなんとか追いついたのに、次の周回の上り(最大斜度10%の難所)で遅れてしまった。結局、脚がなかったのが原因だが、これに負けずエリートに行っても頑張りたい。

納得の走りができず、5周回でリタイアの村山規英のコメント

集団の3人前にいた選手が中切れを起こし、前に追いつけなかったのが痛かった。全体的に7割程度のパワーで

走っている選手が多く、みんな脚をためているような選手だった。1回しか新城選手の前に出られなかったことを後悔している。もうこういう「もったいないこと(自分には力があるのに出し切れないこと)はしたくない。

膝の故障にも関わらず、5周回を走りきった畑中勇介のコメント

スタートからひどい状態だった。ひとり旅になっても周回を重ねたのは、何も考えず自然と出た行動だった。膝をかばいながらペダルを回したため、普段と違う筋肉が疲れてきたのも原因だろう。これもひとつの通過点。次につなげたい。

=ロードレースエリート女子=

午後2時半にスタートしたエリート女子は、朝の寒さとは打って変わって、気温25度以上の暑い午後の日差しの中で行なわれた。

レースは終始、アタックが仕掛けられてはそれが吸収されるの繰り返しだったが、前半は沖が集団の前方を走るなどの活躍を見せ、上位入賞も期待された。しかし、4周目で急にスロウダウン。前日から突発的に始まった喘息が原因だった。沖はそのまま差を縮めることができず、10数名の後続集団にいたまま5周回でリタイアとなった。

一方、萩原はメイン集団の中ほどをキープし、着実に周回を重ねていく。レースは5周目に決まった15人の逃げがゴールまで続き、萩原は後続集団の14位でフィニッシュラインを超え、世界選エリート初出場にして30位の好成績を挙げることができた。



総合30位の萩原麻由子のコメント

やはりトスカーナで本場のレースを事前に体験できたのが大きかった。正直、走りきれるとは思っていなかったので、すごいことだと思う。一番きついときに諦めなかったのが良かったのか。今後も欧州のレースを走って、レースの感覚をつかんでいきたい。

喘息が原因で無念のリタイアに終わった沖美穂のコメント

前日の夜、急に喘息が始まり、寝ることさえできなかった。レース前半はそれも止まっていたが、途中で再発して呼吸困難に。息ができなければ、脚に酸素も回らない。もうどうしようもできなかった。

2006年9月24日

種目:ロードレースエリート男子

距離:22.15km x 12=265.9km

天候:晴れ 気温:27度

=ロードレースエリート男子=

オーストリアに入って約1週間。とうとう決戦のときが訪れた。

ロードレースエリート男子に出場する3人(福島、野寺、別府)は、7時半に朝食を取り、9時にホテルを自走で出発。10時半のスタートに備えた。見た目には緊張している様子もなく、笑顔も見せながら準備を進めるが、やはり今日はエリート男子のレース。隣のチームピットには、今年のツール・ド・フランスでラルプ・デュエズのステージを獲ったフランク・シュレクが、同じくツールでマイヨ・ベールを獲ったトール・ハスホフトがいる。やはり、プロ集団が集まる独特の雰囲気はレース会場を包む。平常心でいれば何でもないと(たとえば安全ピンでゼッケンを留めるなど)も、手が震えてスムーズにできない。知らず知らずのうちに緊張しているようだ。

ベルギーやスペインが最大の9名で参戦しているのに対し、日本は3名。しかし、先述のハスホフトがいるノルウェーも3名、シュレクのルクセンブルクに至っては1名だ。もちろん9名で出場できればいいが、悲観することなく戦いたい。

レースはスタート直後からベネズエラ選手のアタックで始まる。今年クイックステップに移籍しツールに出場した、ホセルハノのいるチームだ。ちなみにベネズエラも3名で出場している。その逃げは捕まるが、今度はコロンビアの選手がアタック。それにヒートアップされた集団が、高速で1周目を走り抜ける。

2周目に入るスタート・フィニッシュ地点では、別府が8位で通過。名だたる選手たちに囲まれ、集団の先頭を走る別府の姿が国際映像に映る。通過順位を示すリストにも、日の丸が表示

された。国の誇りを感じる瞬間だ。

レースはその後、3周目に決まった12人の逃げが続き、大集団がその逃げを許す形で展開。一時はタイム差が15分近くまで開いた。その頃には気温がどんどん上がり、丘の上の補給所にいたスタッフは、外に立っていると熱射病になりそうだったと言う。こういう気温の中でのスロースピードは、体力を消耗する。

スピードが徐々に上がり始めたのは8周目。集団から一発を狙った選手がアタックを仕掛ける。9周目には、別府と野寺が先頭を引くシーンが国際映像に流れた。

集団がバラバラになり始めたのは9周目の後半。ちょうどレース距離が200kmに達したところだ。アントニオ・フレチャ(スペイン)やルカ・パオリニ(イタリア)などが10%の上りでアタックをしかけ、その後も逃げが捕まっては、また誰かが逃げる展開が繰り返される。この攻防に耐え切れない日本代表は、ジワジワと遅れを取るようになる。

11周目、別府は集団の中に残っているが、福島と野寺が集団から完全に取り残される。その週の補給地点に来た福島は、サコッシュを取って残りの周回に備えようとするが、コミッセルによってレースを下ろされてしまった。タイムオーバーだ。野寺は1人で補給所を通過したが、完走させてもらえるかどうか。残りたった1周。

しかし無情にも、野寺は12周目で降ろされる。あと22kmのところまでゴールを逃した。希望は別府に託されるが、11周目で集団から遅れて6人の小グループとなり、とにかくゴールを目指すしかなかった。

レースは、パオロ・ベッティーニ(イタリア)とエリック・ツァベル(ドイツ)の一騎打ちとなり、スプリントを制したベッティーニが念願の'06年世界チャンピオンとなった。3位にはアレハンドロ・バルベルデ(スペイン)が入った。

ゴール後、18名の選手とスタッフ全員がチームピットに集まって選手たちをねぎらい、帰り支度をした。別府は「役に立てなくてすみません」と言い、野寺は「すごく調子よかったんですけどね」と言い、福島は帰りの車を用意したにも関わらず自転車にまたがって、

「練習します」と言ってレース会場をあとにした。

ホテルに戻ったらみんなで乾杯をし、お互いの健闘を称えた。スタッフに対しては感謝の言葉もあった。その夜は遅くまで語り、笑った。たった1週間とは言え、同じ目標に向かった仲間だ。次の朝は全員で集合写真を撮り、握手をして別れた。

日本代表選手たちは、この瞬間に出せる力をすべて出し切って戦ったということは間違いない。藤野コーチの言葉を借りれば「みんな実力はある。何かちょっとしたことがうまくかみ合うと、上位の結果が出せるようになるんだろう。」今後の日本ロードレース界に期待したい。



出場選手194名中、124位で走りきった別府史之のコメント

今年、プロレースをいくつか走っているが、今の自分では乗り越えられない壁があると実感した。ラスト2週の坂で遅れたのだが、「今日の自分の力」が足りなかったんだと思う。あと一歩、ひと踏みが自分には足りないんだ。それがわかっただけでも、この世界選で大きく成長できたと思う。しかし結果

については、もう何も言えない。いつも走っている同じメンバーが、集団に残れて上位に入っているのに、今日の自分にはそれができなかった。自分では、先頭集団でゴールできる力があると思っている。もしかしたら世界選の雰囲気飲まれてしまったのかもかもしれない。とにかく悔いが残る世界選となった。

残り1周で惜しくも完走を逃した野寺秀徳のコメント

今回の世界選のメンバーに選ばれ、日本代表というプレッシャーもあったが、調整に細心の注意を払い、最高の状態で現地入りができていた。だから200kmまではすごく調子が良かった。「これが最後のレースになってもいいつもりで臨もう」と、自分を勇気づけていた。自分の力をすべて出し切って、目標の完走ができなかったのだから、これが今の自分の実力だと受け止めている。この世界選を、今後の選手生活に活かしていきたい。この1週間、代表メンバーと共に生活をして、彼らから影響を受ける面も多かった。いろいろ勉強になった。U23の4人は、自分が23歳以下だったときより強い。下からの追い上げに焦らなければならないが、期待もしている。また来年、世界選に戻ってきたい。そのときは結果を出す。

タイムオーバーで残り2周を残してリタイアした福島晋一

のコメント
コンディション良く現地入りできていると思っていたが、レースが始まっ

てみると実際には良くなかった。まあ、調子が良かったからといって、最後の集団に残れるかは問題だが。でも、自分はずっと走れると思う。ワランク上の選手を見て、自分に足りないものは何かを理解し、これまで体を上げていった。でも結果が出なかった。「経験のために...」という年齢ではないが(今年35歳)来年につなげたいと思う。レース後、練習に行ったのは、10月のジャパンカップの調整だ。もう1か月もないので、世界選の悔しさをジャパンカップで挽回したい。

(土肥 志穂)

[競技結果]

2006年U-23 世界選手権大会

(2006/9/20-24 オーストリア・ザルツブルグ)

男子U23 (177.2km)

1	CIOLEK Gerald	GER	4:00:50
2	FEILLU Romain	FRA	4:00:50
3	KHATUNTSEV Alexander	RUS	4:00:50
14	新城 幸也	JPN	4:00:55
130	三瀧 光誠	JPN	4:13:59
	村山 規英	JPN	DNF
	畑中 勇介	JPN	DNF

女子U23 (132.9km)

1	VOS Marianne	NED	3:20:26
2	WORRACK Trixi	GER	3:20:26
3	COOKE Nicole	GBR	3:20:26
30	萩原麻由子	JPN	3:22:33
	沖 美穂	JPN	DNF

男子U23 (265.9km)

1	BETTINI Paolo	ITA	6:15:36
2	ZABEL Erik	GER	6:15:36
3	VALVERDE BELMONTE A.	ESP	6:15:36
124	別府 史之	JPN	6:24:21
	野寺 秀徳	JPN	DNF
	福島 晋一	JPN	DNF



日本航空
空で逢いましょう。

Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971

(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎ 0120-25-5931

(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

第53回全日本プロ選手権自転車競技大会ロードレース

飯島規之が7連勝!



連勝を7と延ばした飯島



第53回全日本プロ選手権ロードレース
(2006/09/28 静岡・日本CSC)

個人ロードレース(60km)

- 1 飯島 規之 埼玉 関東地区 1:51:10.30
- 2 樺澤 康輝 群馬 関東地区 1:55:21.37
- 3 舛井 幹雄 三重 中部地区 1:55:24.96
- 4 安東 宏高 大分 九州地区 1:55:25.12
- 5 大屋 健司 広島 中国地区 1:55:42.27
- 6 丸井 宏将 奈良 近畿地区 1:55:46.68
- 7 白井 一機 愛知 中部地区 1:56:07.75
- 8 大久保 聡 鹿児島 九州地区 1:59:42.30
- 9 丸山 勝也 静岡 南関東地区 2:00:15.38
- 10 林 次郎 福岡 九州地区 2:00:52.09



未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

2006年日韓対抗学生自転車競技大会

日本が総合優勝!



'95年に日韓親善学生自転車交歓競技大会としてソウル・オリンピックスタジアムで始まった本大会も、'02年に日韓対抗戦となり今回で5回目、通算12回目の開催となる。ここ数年は韓国に対し後塵を拝していたが、今年は開催日がインターハイ、インカレの1~2ヵ月後で、国体を控えた時期であることから出場選手も上り調子であることが予想され、関係者は期待を抱いて開催場所である日本CSC北400mバンクに集まった。

ところが主に競走系の種目が行われた大会初日(9/22)は、期待に反して日本勢の成績が伸びない。日本勢が勝てたのは男子大学生のスプリントとケイリンの2種目で、他の6種目は韓国勢に優勝を奪われる結果に終わる。これには日本側関係者も、若干の焦りを隠せない状況に陥った。

だが主にタイムトライアル系の種目

が行われた2日目に、日本チームが踏ん張りを見せる。7種目中6種目でセンターポールに日の丸を揚げることで、総合成績でも3ポイント差で勝利を挙げる結果となった。この大会、日本の総合優勝は5年振りとなる。

今回日程が大学生は学生選手権と併催という形になり、選手の消耗もかなりのものであった。選手には心よりねぎらいの言葉をかけたいと思う。またこの大会がスポーツを通じた日韓友好の架け橋になるよう、今後も長く続くことを期待したい。(村田 隆宣)

[競技結果]

2006年日韓対抗学生自転車競技大会
(2006/9/22-23 静岡・日本CSC)

女子スプリント

- 1 李 銀 紙 韓国 陽女子功労学校
- 2 佃 咲江 日本 北海商科大学
- 3 篠崎 新純 日本 明治大学

男子高校生スプリント

- 1 千 皓 臣 韓国 昌原機械工業高校
- 2 金 龍 訓 韓国 加平高校
- 3 雨谷 一樹 日本 作新学院高校

男子大学生スプリント

- 1 屋良 朝春 日本 日本大学
- 2 權 成 五 韓国 昌原大学
- 3 鈴木雄一朗 日本 日本大学

女子500mタイムトライアル

- 1 篠崎 新純 日本 明治大学 38.046
- 2 劉 孝 眞 韓国 連川高校 39.733
- 3 鄭 銀 松 韓国 襄陽女子高校 40.387

男子高校生1kmタイムトライアル

- 1 不破 将登 日本 岐南工業高 1:09.922
- 2 金 龍 訓 韓国 加平高校 1:10.219
- 3 裴 庭 賢 韓国 昌原機械工 1:10.229

男子大学生1kmタイムトライアル

- 1 城 幸弘 日本 日本大学 1:07.767
- 2 屋良 朝春 日本 日本大学 1:09.655
- 3 孫 準 皓 韓国 昌原大学 1:10.590

男子ケイリン

- 1 鈴木雄一朗 日本 日本大学
- 2 裴 庭 賢 韓国 昌原機械工業高校
- 3 孫 準 皓 韓国 昌原高等学校

女子2km個人追抜競走

- 1 睦 企 引 韓国 洪川情報高 2:43.050
- 2 和田見里美 日本 中京大学 2:43.810
- 3 柁原 彩 日本 千原台高校 2:43.921

男子高校生3km個人追抜競走

- 1 徐 俊 用 韓国 東和高校 3:36.936
- 2 奥崎 心吾 日本 青森山田高 3:42.439
- 3 不破 将登 日本 岐南工業高 3:45.004

男子大学生4km個人追抜競走

- 1 長江 寿也 日本 中央大学 5:00.557
- 2 川西 貴之 日本 日本大学 5:02.883
- 3 崔 其 洛 韓国 韓国体育大 5:03.096

女子ポイントレース(12km)

- 1 金 恵 林 韓国 昌原慶一女子高 40p
- 2 鄭 銀 松 韓国 陽女子高校 33p
- 3 柁原 彩 日本 千原台高校 27p

男子ポイントレース(30km)

- 1 徐 俊 用 韓国 東和高校 38p
- 2 崔 其 洛 韓国 韓国体育大学 30p
- 3 川西 貴之 日本 日本大学 28p

女子高校生チームスプリント

- 1 日本 佃・篠崎・福島 1:28.252
- 2 韓国 鄭・李・金 1:30.559

男子高校生チームスプリント

- 1 韓国 千・金・徐 1:18.912
- 2 日本 長島・雨谷・磯田 1:19.609

男子大学生4km団体追抜競走

- 1 日本 鈴木・城・川西・長江 4:41.888
- 2 韓国 崔・禹・孫周・孫準 4:55.381

総合成績

- 1 日本 78p
- 2 韓国 75p



韓国を制した大学生の団体追抜

2006年サイクルサッカー・ワールドカップ第5戦

ピンキーズ大阪が3位



1位RSGギンスハイムと3位ピンキーズ大阪の対戦

10月7日にサイクルサッカー・ワールドカップ第5戦が大阪府立体育館で開催された。オーストラリア、スイス、マレーシア、ホンコンと日本から計10チームが出場し、ドイツのRSGギンスハイムが優勝した。本大会3位のピンキーズ大阪(宮本・木下)がアジア最上位の成績を収め、来年3月チェコでのファイナル大会への出場権を得た。

[競技結果]

- 2006年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ 第5戦
(2006/10/7 大阪・府立体育館)
- 1 RSGギンスハイム GER ミュラー・ローマン/ロスマン・マルコ
 - 2 RVDトルビール AUT リング・マルチン/レール・マルクス
 - 3 ピンキーズ大阪 JPN 木下直也/宮本武彦
 - 4 ヌルム東京 JPN 松田 鋼/都築勝巳
 - 5 チームJ東京 JPN 黒田 岳/森 茂史
 - 6 神戸FCクラブ JPN 宮川廣平/芦田朋宏



06～07シーズン国内シクロクロス日程(案)

シクロクロス小委員会

年	月	日	曜日	北海道SP	シクロ富山	シクロミーツing	関西加	シクロ広島	シクロ九州	関東加
2006	7	23	(日)	長沼						
		9	10	(日)	当別					
		24	(日)	長沼						
10	10	1	(日)			プロローグ				
		15	(日)	苦小牧	砺波		プロローグ			
		22	(日)						島根・奥出雲	
		29	(日)	長沼	黒部				島根・奥出雲	
11	11	5	(日)			松本		吉和・もみのき		
		12	(日)	野幌	(未定)	霧が峰	びわこマイアミ			
		19	(日)		常願寺	安曇野				
		23	(祝)							
		25	(土)							
12	12	26	(日)	野幌	常願寺		野洲川 (UCI)	島根・飯南		関東クロス 関東クロス
		3	(日)	苦小牧(全日本)						
		10	(日)			上山田	日吉	八千代		
		17	(日)				三段池		海の中道	
2007	1	24	(日)			富士山	北神戸	庄原		
		7	(日)				希望が丘	宮島		
		14	(日)			南アルプス	堺	尾道		
		21	(日)				桂川	吉和・魅惑の里		
2007	1	28	(日)						海の中道	

:セレクションレース

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

第47回全日本学生選手権自転車競技大会 (2006/9/23-24 静岡・日本CSC)

男子1kmタイムトライアル

- 1 城 幸弘 山梨 日本大学 1:07.767
- 2 我妻 敏 福島 日本大学 1:08.717
- 3 西村 光太 三重 早稲田大学 1:08.768
- 4 土屋 壮登 埼玉 順天堂大学 1:09.615
- 5 屋良 朝春 沖縄 日本大学 1:09.655
- 6 川崎 大慈 熊本 順天堂大学 1:09.737

男子ロード

- 1 佐藤 博紀 岩手 日本大学
- 2 佐川 翔吾 大阪 順天堂大学
- 3 中村 健志 熊本 日本大学
- 4 飯島 悠 静岡 東海大学
- 5 阿部 力也 宮城 日本大学
- 6 三浦 雄大 宮城 東北学院大学

男子ケイリン

- 1 鈴木雄一朗 山梨 日本大学
- 2 真船 拓磨 福島 日本大学
- 3 東矢 昇太 熊本 中央大学
- 4 白鳥 佑 東京 法政大学
- 5 高橋 韻旨 岐阜 法政大学
- 6 山田 裕哉 岐阜 東北学院大学

男子4km個人追抜競走

- 1 小豆畑郁也 福島 日本大学 4:52.046
- 2 太田 貴明 京都 京都産業大 5:02.390
- 3 山本 貴洋 福井 日本大学 5:01.645
- 4 矢代 慎吾 富山 日本大学 5:12.426
- 5 根本 哲吏 秋田 明治大学 5:00.878
- 6 川西 貴之 岐阜 日本大学 5:02.883

男子ポイントレース

- 1 渡辺耕三郎 神奈川 中央大学 42p
- 2 中島 康晴 福井 鹿屋体育大学 40p
- 3 兼平 純 岩手 日本大学 37p
- 4 島田 真琴 東京 法政大学 20p
- 5 白川 巧 大分 日本大学 18p
- 6 大久保光次 鹿児島 鹿屋体育大学 14p

男子タテムスリ

- 1 東北学院大学 三浦・櫻井
- 2 立教大学 木村・山本
- 3 朝日大学 鷲原・高木
- 4 空位
- 5 明治大学 神・鈴木
- 6 早稲田大学 岡本・宮原

男子マシソン

- 1 長江・渡辺 中央大学 20p
- 2 大庭・白川 日本大学 17p
- 3 須崎・島田 法政大学 (-1) 6p
- 4 川崎・辻本 順天堂大学 (-5) 9p
- 5 三浦・一戸 法政大学 (-7) 4p

女子500mタイムトライアル

- 1 岡 希美 群馬 法政大学 37.876
- 2 篠崎 新純 千葉 明治大学 38.046
- 3 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学 39.160
- 4 牛島 愛 熊本 日本体育大学 39.775
- 5 石井 寛子 埼玉 明治大学 42.440
- 6 花山 千宏 宮城 日本体育大学 42.470

女子ロード

- 1 篠崎 新純 千葉 明治大学
- 2 岡 希美 群馬 法政大学
- 3 牛島 愛 熊本 日本体育大学
- 4
- 5 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学
- 6 伊藤 史子 三重 順天堂大学

女子3km個人追抜競走

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学 4:06.259
- 2 井上 玲美 東京 法政大学 4:19.712
- 3 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 4:21.748

女子ポイントレース

- 1 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大学 40p
- 2 井上 玲美 東京 法政大学 25p
- 3 石井 寛子 埼玉 明治大学 17p
- 4 伊藤 史子 三重 順天堂大学 -5p
- 5 岡 希美 群馬 法政大学 -32p

全日本学生室内自転車競技選手権大会 (2006/9/30-10/1 大阪・桃山学院大学)

サイクルカッパ

- 1 長井・長岡 大阪大学
- 2 田中・前田 東京工業大学
- 3 谷・中田 大阪大学
- 4 小川・前田 大阪大学
- 5 桂田・遠藤 関西大学
- 6 谷川・内村 東京工業大学

2006UCI国際BMX選手権日本大会 (2006/10/7-8 岡山・笠岡)

Elite Men

- 1 CALUAG Daniel USA
- 2 CAMERON Matthew NZL
- 3 HOLMES Dale GBR
- 6 KURODA Jun JPN
- MIURA Susumu JPN (1/2F) 5
- KIKUCHI Tetutaru JPN (1/2F) 5
- SHIMADA Tadahiko JPN (1/2F) 6
- YAMAZAKI Youhei JPN (1/2F) 6



Junior Men

- 1 BRADFORD Joey USA
- 2 SAMPEI masahiro JPN
- 3 FUJIWARA Kaito JPN
- 4 NOBUKIYO Ryota JPN
- 5 TAKAYAMA yujiro JPN
- 6 KIKUCHI YU JPN



- 7 BOOKER tye AUS
- 8 FUJISAWA Yuichi JPN

Elite Women

- 1 Walker Sarah NZL
- 2 Barragan Stephanie USA
- 3 MIWA ayaka JPN
- 4 Horlor Lisa NZL
- 5 SAKAGUCHI kimi JPN



ヘラルドサンツアー2006 (UCI2.1) (2006/10/8-14 オーストラリア・メルボルン)

総合成績

- 1 GERRANS Simon AUS AUS 20:33:00.97
- 2 JONGEWAARD Chris AUS SLV 20:33:05.78
- 3 McCANN David IRL GNT 20:33:14.60
- 33 増田 成幸 JPN ミヤ・スバル 21:14:10.59
- 34 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 21:14:13.44
- 36 阿部 良之 JPN スキルズ 21:14:41.90
- 42 飯島 誠 JPN ブリヂストン 21:17:49.42
- 73 清水 良行 JPN NIPPO 21:29:39.79
- 82 中島 康晴 JPN 鹿屋体大 21:38:07.88
- 85 辻 善光 JPN 立命館大 21:56:34.39

第1ステージ 10月8日ケリカム

- 1 CLARKE Hilton AUS NIC 1:05:35
- 2 ERLER Tobias GER GNT 1:05:42
- 3 MENZIES Karl AUS HNM 1:05:47
- 20 辻 善光 JPN 立命館大学 1:05:57
- 29 飯島 誠 JPN ブリヂストン 1:05:57
- 47 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 1:06:53
- 51 阿部 良之 JPN スキルズ 1:07:07
- 76 増田 成幸 JPN ミヤ・スバル 1:10:00
- 93 中島 康晴 JPN 鹿屋体大 1:13:55
- 94 清水 良行 JPN TeamNIPPO 1:17:45

第2ステージ 10月9日 (17.9km)

- 1 MENZIES Karl AUS HNM 4:16:40
- 2 DOCKER Mitchell AUS DPC 4:16:42
- 3 ERLER Tobias GER GNT 4:16:47
- 23 飯島 誠 JPN ブリヂストン 4:46:10
- 31 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 4:46:10
- 35 中島 康晴 JPN 鹿屋体大 4:46:10
- 40 増田 成幸 JPN ミヤ・スバル 4:46:10
- 44 清水 良行 JPN Team NIPPO 4:46:10
- 73 阿部 良之 JPN スキルズ 4:46:10

- 94 辻 善光 JPN 立命館大学 5:14:44
 第3ｽﾀｰｼﾞ 10月10日 (158km)
 1 WILSON Trent AUS AUS 4:14:05
 2 LLOYD Matthew AUS SAI 4:14:05
 3 LAPHORNE Darren AUS DPC 4:14:28
 10 増田 成幸 JPN ミヤカｽﾊﾟﾙ 4:18:14
 36 飯島 誠 JPN ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾄﾝ 4:18:44
 56 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 4:18:44
 67 清水 良行 JPN TeamNIPPO 4:18:44
 74 阿部 良之 JPN ｽｷﾙｽﾞ 4:18:44
 77 辻 善光 JPN 立命館大学 4:18:44
 78 中島 康晴 JPN 鹿屋体育大 4:18:44

- 第4ｽﾀｰｼﾞ 10月11日 (178km)
 1 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 4:19:07
 2 TANNER David AUS U23 4:19:07
 3 MCDONALD Peter AUS FRF 4:19:07



- 11 清水 良行 JPN TeamNIPPO 4:20:32
 24 中島 康晴 JPN 鹿屋体育大 4:28:23
 31 増田 成幸 JPN ミヤカｽﾊﾟﾙ 4:28:23
 44 辻 善光 JPN 立命館大学 4:28:23
 53 飯島 誠 JPN ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾄﾝ 4:28:23
 70 阿部 良之 JPN ｽｷﾙｽﾞ 4:28:23

- 第5ｽﾀｰｼﾞ 10月12日 (182.9km)
 1 LLOYD Matthew AUS SAI 4:39:25
 2 DOCKER Mitchell AUS DPC 4:41:03
 3 McDONALD Peter AUS FRF 4:41:18
 9 増田 成幸 JPN ミヤカｽﾊﾟﾙ 4:41:45
 20 阿部 良之 JPN ｽｷﾙｽﾞ 4:44:39
 44 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 4:53:34
 48 飯島 誠 JPN ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾄﾝ 4:54:53
 49 清水 良行 JPN TeamNIPPO 4:54:53
 65 辻 善光 JPN 立命館大学 4:58:13
 66 中島 康晴 JPN 鹿屋体育大 4:58:13

- 第6ｽﾀｰｼﾞ 10月13日 (12km)個人TT
 1 DAY Ben AUS CAB 15:45:78
 2 McCANN David IRL GNT 15:46:60
 3 JONGEWAARD Chris AUS SLV 15:46:78
 34 清水 良行 JPN TeamNIPPO 17:15:79
 35 飯島 誠 JPN ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾄﾝ 17:16:42
 41 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 17:23:44
 45 増田 成幸 JPN ミヤカｽﾊﾟﾙ 17:26:59
 46 阿部 良之 JPN ｽｷﾙｽﾞ 17:26:90
 78 辻 善光 JPN 立命館大学 18:21:39
 84 中島 康晴 JPN 鹿屋体育大 18:31:88

- 第7ｽﾀｰｼﾞ 10月14日 (65km)
 1 MCEWEN Robbie AUS AUS 1:26:01
 2 HENDERSON Greg NZL HNM 1:26:01
 3 GERRANS Simon AUS AUS 1:26:01
 21 飯島 誠 JPN ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾄﾝ 1:26:26
 65 阿部 良之 JPN ｽｷﾙｽﾞ 1:27:53
 66 廣瀬 敏 JPN 愛三工業 1:27:53
 72 増田 成幸 JPN ミヤカｽﾊﾟﾙ 1:27:53

- 74 辻 善光 JPN 立命館大学 1:27:53
 78 中島 康晴 JPN 鹿屋体育大 1:27:53
 80 清水 良行 JPN TeamNIPPO 1:27:53



第2回全日本実業団サイクリロードレース in 飯田 (2006/10/15 長野・飯田)

- BR-1
 1 土井 雪広 山形 シルベリング 3:19:16
 2 田代 恭崇 JPCA ブリヂストン 3:20:53
 3 野寺 秀徳 JPCA シルベリング 3:20:54
 4 大内 薫 JPCA シルベリング 3:25:38
 5 廣瀬 佳正 JPCA シルベリング 3:25:38
 6 相川 将 埼玉 ブリヂストン 3:26:14
 7 向川 尚樹 大阪 マリック 3:26:23
 8 福田 真平 神奈川 spacebikes 3:26:32
 9 中村 誠 石川 ミヤカｽﾊﾟﾙ 3:26:33
 10 野口 忍 京都 ホンドレガ - 3:26:41

- 女子
 1 山口 亮子 愛知 ｷﾝｺﾞCCD 1:10:07
 2 小池摩知子 福井 BALBAR. 1:15:52
 3 岡野 尚美 静岡 Spade Ace 1:15:53
 4 志村みち子 埼玉 ｶﾞｰﾙｽﾞあづみの 1:16:08
 5 智野 真央 東京 SERENO 1:18:05
 6 堀 友紀代 神奈川 - 1:19:51

第42回全日本学生新人戦東日本大会 (2006/10/15 埼玉・西武園)

- 男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
 1 土屋 壮登 埼玉 順天堂大学 1:08.73
 2 我妻 敏 福島 日本大学 1:09.99
 3 川本 琢也 岡山 法政大学 1:10.18
 4 光富 雄也 千葉 法政大学 1:12.04
 5 山本 崇史 富山 日本大学 1:12.92
 6 一戸 康宏 埼玉 法政大学 1:13.09

- 男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ
 1 阿部 力也 宮城 日本大学
 2 佐々木吉徳 秋田 明治大学
 3 岡本 光由 熊本 早稲田大学
 4 浅田 勝利 東京 東北学院大学
 5 三浦 雄大 宮城 東北学院大学
 6 飯島 悠 静岡 東海大学

- 男子ケイリン
 1 東矢 昇太 熊本 中央大学
 2 伊原 陽平 兵庫 法政大学
 3 関田 龍 岩手 富士大学
 4 白鳥 佑 東京 法政大学
 5 阿部 将兵 大分 日本大学
 6 山田 裕哉 岐阜 東北学院大学

- 男子4km個人追抜競走
 1 川西 貴之 岐阜 日本大学 4:59.90
 2 辻中 国宏 京都 日本大学 5:00.60
 3 穂苅 大地 新潟 法政大学 5:06.67
 4 山本 貴洋 福井 日本大学 5:07.05
 5 三浦 健正 青森 法政大学 5:08.60

- 6 櫻井 正孝 宮城 東北学院大 5:08.61
 男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ (30km)
 1 白川 巧 大分 日本大学 52p
 2 漆澤 均 岩手 日本大学 44p
 3 大庭 伸也 宮城 日本大学 35p
 4 湯浅 徹 千葉 明治大学 22p
 5 兼平 純 岩手 日本大学 16p
 6 安福 洋徳 奈良 早稲田大学 12p

- 女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
 1 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学 38.87
 2 岡 希美 群馬 法政大学 39.33
 3 牛島 愛 熊本 日本体育大学 39.67
 4 古川真理江 長野 信州大学 41.75
 5 森 智恵美 京都 順天堂大学 42.03

- 女子ｽﾌﾟﾘｯﾄ
 1 牛島 愛 熊本 日本体育大学
 2 岡 希美 群馬 法政大学
 3 栗原 瞳 埼玉 順天堂大学
 4 古川真理江 長野 信州大学

- 女子3km個人追抜競走
 1 森 智恵美 京都 順天堂大学 4:37.54

第42回全日本学生新人戦西日本大会 (2006/10/15 大阪・関西CSC)

- 男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ
 1 高間 悠平 福井 朝日大学 1:10.480
 2 高木 健也 富山 朝日大学 1:11.640
 3 高橋 政登 愛知 中京大学 1:13.580
 4 外園 涼 神奈川 名古屋産大 1:13.900
 5 二階堂尚志 大阪 関西大学 1:15.380
 6 吉田 真人 奈良 立命館大学 1:18.840

- 男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ
 1 岡 豊洋 和歌山 京都産業大学
 2 村松 俊弥 山梨 朝日大学
 3 井上 将志 福岡 名桜大学
 4 鷲原 大直 岡山 朝日大学
 5 永峰 文彬 青森 京都産業大学
 6 板谷 卓也 大阪 京都産業大学

- 男子ケイリン
 1 新城 直明 沖縄 名桜大学
 2 山田 佳典 岐阜 朝日大学
 3 安部賢太郎 山梨 朝日大学
 4 浅井 亮多 愛知 中京大学
 5 岩田 拓也 石川 北陸大学
 6 宮川 優貴 石川 北陸大学

- 男子4km個人追抜競走
 1 井関 太一 岐阜 朝日大学 5:10.69
 2 植田 一生 香川 朝日大学 5:19.59
 3 和田 昌也 奈良 朝日大学 5:17.59
 4 南 拓哉 和歌山 中京大学 5:19.12
 5 岩崎 庄平 京都 同志社大学 5:27.13
 6 笹 拓也 大阪 関西大学 5:28.94

- 男子ｽﾌﾟﾘｯﾄ
 1 佐々木優也 広島 京都産業大学 67p
 2 石井 陽 京都 立命館大学 55p
 3 田仲 康矢 沖縄 名桜大学 48p
 4 鶴川 大輝 香川 立命館大学 21p
 5 三河井 翼 京都 同志社大学 12p
 6 中村 弦太 広島 京都産業大学 10p



2006年 Herald サンツアー 日本代表選手団

大会名 2006年 Herald サンツアー (UCI 2.1)
 開催場所 オーストラリア
 大会期間 2006年10月8日～14日
 派遣期間 2006年10月5日～16日
 代表選手団
 監督 三浦 恭資 (JCF強化コーチ)
 コーチ 吉井 功治 (JCFロード競技部会支援スタッフ)
 ムニツク 中島 康仁 (JCFロード競技部会支援スタッフ)
 選手 飯島 誠 (JPCA・チームブリヂストン・アンカー)
 阿部 良之 (JPCA・スキルシマノ)
 廣瀬 敏 (JPCA・愛三工業レーシングチーム)
 清水 良行 (岡山・Team NIPPO)
 増田 成幸 (千葉・ミヤタ・スバルレーシングチーム)
 中島 康晴 (福井・鹿屋体育大学)
 辻 善光 (京都・立命館大学)

2006年 MTB アジア選手権大会 日本代表選手団

大会名 2006年 MTB アジア選手権大会
 開催場所 ベトナム・AN GIANG
 大会期間 2006年10月26日～29日
 派遣期間 2006年10月23日～31日
 代表選手団
 監督 三浦 恭資 (JCF強化コーチ)
 ムニツク 仁木 康夫 (JCF強化スタッフ部会)
 白井 三善 (JCF強化スタッフ部会)
 選手 クロスカントリー
エリート男子 山本 幸平 (北海道・国際アウトドア専門学校)
 小野寺 健 (北海道・SUBARU GARYFISHER)
 野口 忍 (京都・TREK)
エリート女子 片山 梨絵 (神奈川・TREK)
 田近 郁美 (岐阜・MSC KOWA/SENK)
 矢沢みつき (山梨・シーナック・スペシャライズド)
ダウンヒル
エリート男子 井出川直樹 (広島・G Cross HONDA)
エリート女子 未政 実緒 (兵庫・大川組)

2006年 ジャパンカップ サイクルロードレース 日本代表選手団

大会名 2006年 ジャパンカップ サイクルロードレース (UCI 1.1)
 開催場所 栃木・宇都宮市森林公園周辺 周回コース
 大会期間 2006年10月22日
 派遣期間 2006年10月20日～22日
 代表選手団
 監督 三浦 恭資 (JCF強化コーチ・ロード競技部会長)
 コーチ 福田 公生 (JCF強化コーチ)
 ムニツク 鬼原 積 (JCF強化スタッフ)
 マッサー 石田 宗男 (JCF強化スタッフ)
 選手 田代 恭崇 (JPCA・チームブリヂストン・アンカー)
 飯島 誠 (JPCA・チームブリヂストン・アンカー)
 畑中 勇介 (東京・チームブリヂストン・アンカー)
 岡崎 和也 (JPCA・Team NIPPO)
 真鍋 和幸 (香川・Team NIPPO)

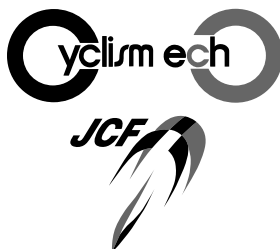
2006年 世界室内自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名 2006年 世界室内自転車競技選手権大会
 開催場所 ドイツ・Chemnitz
 大会期間 2006年11月24日～26日
 派遣期間 2006年11月18日～29日
 選手団
 監督 植本 昌之
 コーチ 濱田美穂子
 選手
サイクルサッカー 都築 勝巳 (東京・ケルビム東京)
 松田 鋼 (千葉・ケルビム東京)
 宮本 武彦 (大阪・ピンキーズ大阪)
 木下 直也 (大阪・ピンキーズ大阪)
サイクルフィギュア 芦田 史朗 (千葉・アンフィニ京葉)
 宮崎 沙織 (東京・東京輪球会)

連盟の動き (9月下旬～10月中旬)

9月22日	UCI総会	於：オーストラリア・ザルツブルグ
26日	平成18年度第2回理事会	於：東京・日本自転車会館
"	平成18年度第1回広報委員会・広報部会合同会議	於：東京・自転車会館
10月8日	2006年 Herald サンツアー 日本代表選手団出発	於：オーストラリア (～14日)
9日	2006年 オリンピックフェスティバル	於：東京・駒沢オリンピック公園
11日	短・中距離強化合宿	於：静岡・日本CSC (～17日)

JCF協賛スポンサー



シクリスムエコー No.134 2006年10月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>